

外部評価結果報告書(平成30年度)

年 月 日

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	佐藤 義夫	経営・福祉	H0302053
	②	長谷 憲明	福祉	H1801021
	③	堀 洋子	福祉	H0701024
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	一時保護所			
評価対象事業所名称	立川児童相談所(南分室)			
事業所連絡先	〒	190-0012		
	所在地	立川市曙町3-10-19		
事業所代表者氏名	所長 鈴木 香奈子			
契約日	2018	年	8	月 3 日
利用者調査票配付日(実施日)	2018	年	9	月 18 日
利用者調査結果報告日	2018	年	11	月 6 日
自己評価の調査票配付日	2018	年	9	月 10 日
自己評価結果報告日	2018	年	11	月 6 日
訪問調査日	2018	年	11	月 19 日
評価合議日	2018	年	11	月 19 日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	<p>事前説明は、外部評価の手法について独自の資料を用いて実施した。職員説明会は、一時保護所の事情に応じて複数回行った。</p> <p>確認根拠資料の確認は、訪問調査時に行い、一時保護所の負担の軽減を図った。</p> <p>利用者調査については、男女の調査員を複数名用意し、速やかな対応に努めた。</p> <p>利用者調査・職員調査とも、一時保護所全体での比較を可能とするために資料の作成を行った。</p>			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

平成30年度

1	<p>#. ÖG%o %o5*F-H 6ö4 F-G9GTGBGxGŠH F-GxGŠGNGŠGEGQGeFø – î ô H</p> <p>! *...FÜ ± )FûFçFöFÔG *fFØH ! *...Fp#. ÖG%oGaGFGuG•G%o Q èFúFùH        "IFû5 0[FúG FpH V )H Fô&amp;i ØH G"(F ©Fû0°3Û        H 6ö4 F-G9GTGBGxGŠH F-GxGŠGNGŠGEGQGeFø – î ô H</p> <p>H &gt;Ö&gt;  £'zFp Ç 'Fp [5        H &gt;Ö&gt;  ó ?F÷ ó °F÷FÝG #Ö q        H &gt;Ö&gt; 4: )Fú -  Fp S(        H &gt;Ö&gt;  -0b/² Á 'Fp [5        H &gt;Ö&gt;  ›4Š6ÛFøFp4</p>
2	<p>‡ ...FéG *Ë ( @F-H 6ö4 F-G9GTGBGxGŠH F.*Ë (Fø) )ÉFp+ Š ¥ VH</p> <p>H H H *Ë (Fû ÓG FöFÔG Ç ! @G z m        ' &lt; æ1#Fû D #F÷FÖG F,0 7\$Fú#) CFp pF÷ /FöFÖFöFÝFî È jFîFñFú \$G çFØG Ç !FÜ ?0[F÷FÖG F¹</p> <p>H H H *Ë (Fû ‡ ...FéG FãFøH *Ë (Fû âFóFö 'FçFÔ Q è #H        M ì -1# dFp z mFø&amp;k \$x Q èFúFöFÖFöF, FYFñG#Fø1 1'G" âFñF, -Fû 5 •Fp -1'G" âFöFãFøF¹        M ì -1# dFp"l öG"2ÄG FØF, ó °F÷FÝG dF, fFçFÔ ± ÇFÜFÔG dF %&amp;1/F÷FÝG ± ÇFÜFÔG dF÷FÖG FãFøG        FÜ*ÛF÷ #FèFöG G FØG G FÖFú -  FÜF÷FÝG *Ë (G"% æFçFöG G FÖFîFÖF¹</p>

調査対象

調査日の前々日までに入所した児童を対象とした。

調査方法

小学生は個別面談方式により、調査員が個別に聞き取り調査を実施した。

利用者総数

10

共通評価項目による調査対象者数

共通評価項目による調査の有効回答者数

アンケート	聞き取り	計
0	10	10
0	10	10
0%	100%	100%

### 利用者調査全体のコメント

調査対象者10名全員から回答を得ることができた。満足度の高い項目として、「施設内の清掃、整理整頓は行き届いていますか」「食事の時間は楽しいひとときになっていますか」「自らの権利について職員はわかりやすく教えてくれましたか」「規則正しい生活ができるようになりましたか」「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できますか」などがあがっている。総合的な満足度では、「よい」「ややよい」が5名、「どちらともいえない」が2名、「ややよくない」「よくない」が3名であった。コメントとしては「散歩や図書館に行く。友達と話したり工作をする」「遊びの時間の前に何をしたいか聞いてもらえる。テレビが見られる」「勉強がわからない時教えてくれる」などがあがっている。一方、「先生がこわい」などのコメントもあった。

### 場面観察方式の調査結果

調査の視点：「日常生活の場面で利用者が発するサイン（呼びかけ、声なき呼びかけ、まなざし等）とそれに対する職員のかかわり」及び「そのかかわりによる利用者の気持ちの変化」

### 評価機関としての調査結果

《調査時に観察したさまざまな場面の中で、調査の視点に基づいて評価機関が選定した場面》

（午前中の散歩）

・幼児班は近所の公園に、2人又は3人ずつ手をつなぎ、列を作って向かう。

（遊び時間・運動時間）

・子どもたちは体を動かせる時間を楽しみにしている様子だった。公園では自由に遊べる時間として、滑り台などの遊具で遊ぶ子や、落ち葉拾い、虫探しなど、好きな事を見つけて遊べるようにしている。

《選定した場面から評価機関が読み取った利用者の気持ちの変化》

<p>(食事)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の食事では、エプロンをかけた2歳児が一生懸命食べていた。</li> <li>・ 職員は子どもたちの様子を見ながら、嫌いな物は最初に減らしてあげ、後はできる限り食べるように声をかけている。</li> </ul> <p>食事時間は11時50分～12時15分と少し早い印象を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児は幼児用のテーブルとイスで食事をしているが、足が床に付かない子どもは足をぶらつかせていた。「足をぶらぶらしない」という指導を受ける場面は見なかったが、子どもの背丈に合わせた足置き台等、工夫している椅子はあるとのことなので、この子には使用した方が良かったのではと思えた。</li> <li>・ 食事が済むと職員が幼児の名前を呼び、午睡の移動のために並んで居室の方へ移動している。午睡に入ることから、騒がないで移動するように声をかけているが、注意する声大きいように感じた。</li> </ul> <p>(散歩)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天気が良く、少し暑いと感じる気候ではあったが幼児たちは汗をかきながらも楽しそうにおしゃべりしながら歩く。公園に着くと一人の職員が安全確認を行った後、滑り台遊び、その後オヤツの時間で冷たいものを取る。</li> <li>・ ほんの1時間程度の散歩にも大はしゃぎの幼児たちの姿が印象的であった。付き添いの職員は3人で15人の幼児がいるため、幼児5人に職員1人の割合であるが、3人の職員は、公園内で虫を見つけたり、落ち葉を拾ったりと、活発に行動する子供たちに対し、動き回る子供たちの安全の確保など対応に苦慮していたように見えた。</li> </ul>
--

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 食事の時間が楽しいひとときになっているか (食事の時間は楽しみですか)	8	1	1	0
8名が「はい」と回答している。コメントとしては「おいしく食べやすい。お友達二人と決まった席で食べる」などがあがっている。一方、「楽しく食べたいけど話ができない」「黙って食べる」などのコメントもあった。				
2. 食べられるものの広がり (食べたことがないものや嫌いなものでも、おいしく食べられるようになりましたか)	0	6	4	0
6名が「どちらともいえない」と回答している。コメントとしては「がんばって食べている。マヨネーズがすっぱい」などがあがっている。一方、「減らしても食べなきゃいけない。強制的に食べさせられる」などのコメントもあった。				
3. 学習の分かりやすさ (学習はわかりやすく楽しいですか)	5	1	4	0
5名が「はい」と回答している。コメントとしては「やさしい。体育と図工が嫌」「算数、国語など全部好き」などがあがっている。一方、「最初は楽しかったけど飽きた。学校の方が楽しい」などのコメントもあった。				
4. 規則正しい生活ができるようになったか (ここに来てから、規則正しい生活ができるようになりましたか)	7	2	0	1
7名が「はい」と回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。コメントとしては「今一人だから夜眠れない」「日曜日は寝ていたいけれど寝かせてくれない。疲れる」などがあがっている。				
5. 保護所生活での楽しみ (保護所で楽しいと思う活動はありますか(体を動かすこと、創作活動、所外活動など))	6	0	3	1

6名が「はい」と回答している。コメントとしては「散歩」「図書館へ行く」「バトミントン・サッカー・ドッチボールなどの運動」「おやつの後遊び」「本を読む、テレビが見られる、漫画が読める」などがあがっている。一方、「全然楽しくない。飽きた」などのコメントもあった。				
6. 保護所の日課やルールについて、必要性が理解できたか (保護所の規則(決まりや約束ごと)についてどうして大切なのか理解していますか)	4	2	4	0
4名が「はい」と回答している。コメントとしては「個人情報だから家のことを話さない。勝手に外に出ない。友達に触らない」「ケンカをしない」「人に触らない、友達をぶったり蹴ったりしない」などがあがっている。				
7. 病気やけがの対応の信頼性 (身体の調子が良くないときやけがをしたときに、すぐに対応してもらいましたか)	3	5	2	0
3名が「はい」と回答している。コメントとしては「身体の調子が良くないことはない」「頭痛やお腹が痛いことがあったけど先生には言わない。何か言われるのが嫌だから」などがあがっている。				
8. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか (居室やホール、食堂・浴室・トイレ(共有スペース)は清潔ですか)	10	0	0	0
回答者全員が「はい」と回答している。コメントとしては「自分達で掃除をする」「お昼の後に掃除をしている」などがあがっている。一方、「面倒くさい」などのコメントもあった。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか(子供同士の関係調整) (子ども同士の関係がうまくいくように、職員が気づかってくれますか)	6	2	2	0
6名が「はい」と回答している。特にコメントはあがっていない。				
10. 今後に向けた自分の状況や要望の聞き入れ (自分のこれまでのことや今後どうしたいかについて、職員に聞いてもらえますか)	5	1	3	1
5名が「はい」と回答している。コメントとしては「担当の先生が聞いてくれる」などがあがっている。一方、「話はまだしていない」などのコメントもあった。				
11. 児童の状況や要望を十分把握し、援助がなされている (あなたにとって、保護所で生活する目的や目標を職員はわかりやすく説明してくれますか)	5	2	3	0
5名が「はい」と回答している。コメントとしては「忘れちゃった」「なぜここにいるのかわからない」などがあがっている。				
12. 将来に向けた支援の成果 (【小学生以上全て】保護所の生活を通して、自分自身の気づきや成長につながった(できなかったことができるようになった)ことがありますか)	2	7	1	0

2名が「はい」と回答している。コメントとしては「勉強ができる。わからなかったらとぼしても良い。後で先生が順番に教えてくれる」「社会と理科が追いつけた」「友達がいっぱいできた」などがあがっている。				
13. 自らの権利について、職員はわかりやすく教えてくれたか (あなたが、保護所でできることやしてもよいことについて職員はわかりやすく教えてくれますか)	7	3	0	0
7名が「はい」と回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。コメントとしては「遊び時間は思いっきり遊んでいい」などがあがっている、一方、「起きる順番があり起こされるまで寝ていなければならない」などのコメントもあった。				
14. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか (不安(心配なこと)を感じたときに、職員は話を聞いてくれますか)	3	3	2	2
3名が「はい」と回答している。コメントとしては「まったくない」「いじめられて先生に言っても直らない」「聞いてもらえない」などのコメントもあった。				
15. プライバシーは守られているか (「あなたが内緒にしたいこと」はきちんと守られていますか)	4	5	1	0
4名が「はい」と回答している。特にコメントはあがっていない。				
16. 児童の苦情申し出等への十分な対応 (困ったことなどを担当の職員以外にも話せたり、伝えたりできますか)	3	1	5	1
3名が「はい」と回答している。コメントとしては「担当の職員の方が話しやすいから」などがあがっている。一方、「先生がこわい」などのコメントもあった。				
17. 不満・要望への対応 (職員は、あなたの不満や要望(いやだなあとか、してほしいなあと考えたこと)について、一緒に考えてくれたり、何らかの対応をしてくれていますか)	5	3	2	0
5名が「はい」と回答している。コメントとしては「初めてここに来た日に友達になってくれた」などがあがっている。一方、「言ったら怒られるのが目に浮かぶ」などのコメントもあった。				
18. 信頼できる職員か (職員はあなたに対して、ていねいに接してくれますか)	5	3	2	0
5名が「はい」と回答している。コメントとしては「丁寧に接してくれる時もある」などがあがっている。一方、「多分こわい」などのコメントもあった。				

## I. 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）

### 1. リーダーシップと意思決定

#### 1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている

評価項目 1-1-1		
一時保護所が目指している（理念・ビジョン、基本方針など）を明確化・周知している		
○×欄	標準項目	
○	1	一時保護所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している
○	2	一時保護所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、児童相談所で働く全ての職員の理解が深まるような取り組みをしている
○	3	一時保護所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、児童の理解が深まるような取り組みをしている
○	4	重要な意思決定や判断に迷ったときに、一時保護所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど)
評価項目 1-1-2		
管理・監督職は自らの役割と責任を職員に対して表明し、保護所をリードしている		
○×欄	標準項目	
○	1	管理・監督職は自らの役割と責任を職員につたえている
○		管理・監督職は、自らの役割と責任に基づいて行動している
評価項目 1-1-3		
重要な案件について、管理・監督職は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
○×欄	標準項目	
○	1	重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている
○	2	重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
○	3	関係機関に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を周知している。
カテゴリー1の講評		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新転入職員に対しては、「一時保護所運営の手引き」を配布すると同時に、その内容について研修を実施している。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に対しては、入所時に「一時保護所のしおり」を使用して一時保護所の理念や目的の説明を行っている。低年齢</li> </ul>		

・職員会議に所長が出席し、「保護所での生活を楽しいものになりたい」と方向性を明確に示すなどリーダーシップを発揮

## カテゴリー2 経営における社会的責任

サブカテゴリー1 社会人・福祉サービス従事者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

### 評価項目 2-1-1

社会人・福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理等を周知している

○×欄	標準項目	
○	1	一時保護に従事する者として守るべき法・規範・倫理を明示している
○	2	全職員に対して、守るべき法・規範・倫理などの理解が深まるように取り組んでいる

### 評価項目 2-1-2

外部評価の結果公表、情報提供などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

○×欄	標準項目	
○	1	外部による評価の結果公表、情報開示などにより、開かれた組織となるように取り組んでいる
○	2	「児童相談所のしおり」や「みんなの力で防ごう 児童虐待」等のパンフレットを活用して、地域社会に一時保護所に関する情報を提供している

## サブカテゴリー2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

### 評価項目 2-2-1

事業所の機能や福祉の専門性を活かした取り組みがある

○×欄	標準項目	
○	1	地域の関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を活かした啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている
○	2	実習生の受け入れ態勢を整備している(担当者の配置、手引書の作成など)

### 評価項目 2-2-2

ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

○×欄	標準項目	
○	1	ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している
○	2	ボランティアの受け入れ態勢を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)
○	3	ボランティアに対し、児童のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている
○	4	日々の活動報告を受けたり意見交換会を実施したりするなど、職員とボランティアとの間で十分な意見交換がなされている

### 評価項目 2-2-3

地域の関係機関との連携を図っている

○×欄	標準項目	
-----	------	--

○	1	地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している
○	2	地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている

### カテゴリー2の講評

- ・ 一時保護所では独自の倫理要綱を整備し、守るべき規範と倫理の周知に努めている。
- ・ 理念や倫理綱領、児童憲章を事務所に掲示するとともに、子供の権利ノートを職員全員に配布している。職員室に

- ・ 一時保護所では、平成28年度より評価項目の検討・見直しを行いながら外部評価を毎年度実施し、その結果を福祉
- ・ 「一時保護所外部評価 評価項目のねらい」には、「保護所運営と児童援助の両面が適切に行われていなければな
- ・ 第三者委員や外部評価などを積極的に活用して、自己改革を進める姿勢は評価できる。

- ・ 地域の関係機関との連携や地域への貢献として、実習生やボランティアの受け入れなどを行っている。また、虐待対
- ・ ボランティアについても「ボランティア要綱」の整備や受入れ担当者の配置、オリエンテーション、活動終了後に担当

## カテゴリー3 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

### サブカテゴリー1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している

評価項目 3-1-1		
児童の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している		
○×欄	標準項目	
○	1	児童一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる
○	2	担当児童相談所(相談部門)と連携し、児童が職員以外の外部に訴えや相談できることを、わかりやすく説明している
○	3	必要な時は、担当の児童福祉司等に相談できることを児童に伝えている
○	4	日頃の声掛けなどを通して、児童の要望や苦情を把握している
評価項目 3-1-2		
児童の意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		
○×欄	標準項目	
○	1	児童へのアンケート等、一時保護所側からの働きかけにより意見や要望を把握することに取り組んでいる
○	2	把握した児童の意見や要望を整理し、児童から見た一時保護所の現状や問題を把握している
○	3	児童の意見や要望をサービス向上につなげることに取り組んでいる
評価項目 3-1-3		

**地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している**

○×欄	標準項目	
○	1	地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる
○	2	福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる
○	3	事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している

**カテゴリ-3の講評**

・児童の権利である意見の表明については、入所のインテーク時に、一時保護所職員の他に、担当児童相談所の児  
 ・また、本年度から、第三者委員の活動を本格実施している。  
 ・第三者委員は定期的に一時保護所を訪問して、相談窓口を設けている。  
 ・一時保護所では、定期的な子どもアンケートとともに児童の意見表明の場が増えたことは、今後の一時保護所の生

・定期的な子どもアンケートや退所時アンケート、日記などを通じて児童の感想や意見、要望などを把握しながら、児  
 ・子どもアンケートは、5歳以上の児童に対して、10月から実施しており、自分で書けない児童に対しては聞き取りを  
 ・アンケートや第三者委員への相談に出てくる意見や要望は職員会議で検討を行い、日課の改善や物品の購入など

・地域や事業全体をめぐる動向の把握は、都の児童相談所全体として対応が行われており、行政資料を職員へ回覧  
 ・また、研修会に参加するなどして、他府県の一時保護所や関係施設等の実情把握も行っている。収集された情報は

**カテゴリ-4 計画の策定と着実な実行**

**サブカテゴリ-1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる**

**評価項目 4-1-1**

**取り組み期間に応じた課題・計画を策定(協力)している**

○×欄	標準項目	
○	1	理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画の策定に協力している
○	2	年度単位で事業計画や組織目標を策定している
○	3	短期の活動・行事等についても、計画的(担当者・スケジュールの策定など)に取り組んでいる

**評価項目 4-1-2**

**多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している**

○×欄	標準項目	
○	1	課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている(全体会での次年度計画の検討など)

○	2	課題の明確化、計画の策定に当たり、現場の意向を反映できるようにしている(会議での次年度計画の検討など)
○	3	計画は、サービスの現状(児童の意向・地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している
○	4	計画は想定されるリスク(児童への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している

**評価項目 4-1-3**

**着実な計画の実行に取り組んでいる**

○×欄	標準項目	
○	1	計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
○	2	計画推進に当たり、より高い成果が得られるように一時保護所内外の先進事例・困難事例を参考にしているなどの取り組みを行っている
○	3	計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している
○	4	計画推進に当たり、進捗状況を確認し(半月・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる

**サブカテゴリ-2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる**

**評価項目 4-2-1**

**児童の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる**

○×欄	標準項目	
○	1	児童の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や所内の役割分担を明示している
○	2	事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、職員間で共有し、予防策を講じている
○	3	事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、児童、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
○	4	事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる

**カテゴリ-4の講評**

・ 中長期の計画は本庁により作成され、各一時保護所に示されている。策定に際しては、現場の意見や意向を随時上

・一時保護所では、毎年度、組織目標に基づき事業計画の策定を行っている。

## カテゴリー5 職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1 一時保護所が目指している運営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

### 評価項目 5-1-1

一時保護所にとって必要な人材構成にしている

○×欄	標準項目	
○	1	一時保護所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方など)を明示している
○	2	一時保護所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている(職員配置の要望、非常勤職員の採用など)
○	3	適材適所の人事配置に取り組んでいる

### 評価項目 5-1-2

職員の質の向上に取り組んでいる

○×欄	標準項目	
○	1	職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している
○	2	一時保護所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している
○	3	個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している
○	4	職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている
○	5	職員の研修成果を確認し(研修時、研修直後、研修数か月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している







